

令和4年度第7回定例  
松本市教育委員会会議録

松本市教育委員会

## 令和4年度第7回定例松本市教育委員会会議録

令和4年度第7回定例松本市教育委員会が令和4年10月27日午後3時00分教育委員室に招集された。

---

令和4年10月27日（木）

---

### 議 事 日 程

令和4年10月27日午後3時00分開議

第1 開 会

第2 教育長挨拶

第3 議 事

#### [議案]

第1号 松本市学校給食センター再整備基本方針（案）について【非公開】

第2号 松本市図書館未来プランの策定について

第3号 まつもと文化遺産の認定について

第4号 松本市博物館協議会委員の委嘱について【非公開】

#### [報告]

第1号 「国宝松本城 Week」の開催について

第2号 史跡弘法山古墳調査委員会委員の委嘱について

第3号 史跡小笠原氏城跡整備基本計画策定委員会委員の委嘱について

#### [その他]

〔出席委員〕

教 育 長	伊 佐 治 裕 子
教育長職務代理者	小 柳 廣 幸
教 育 委 員	橋 本 要 人
〃	佐 藤 佳 子
〃	春 原 啓 子

〔出席職員〕

教 育 次 長	逸 見 和 行
教 育 監	坂 口 俊 樹
教育政策課長	白 井 美 保
学校給食課長	三代澤 昌 秀
中央図書館長	小 西 え み
文化財課長	竹 原 学
博物館長	木 下 守
松本城管理課長	勝 山 裕 美

〔事務局〕

教育政策課	
教育政策担当係長	降 旗 基

《開会宣言》 午後3時00分

伊佐治教育長は令和4年度第7回定例松本市教育委員会の開会を宣言した。

教育長           それでは、定刻になりましたので、第7回定例教育委員会を開催いたします。

北アルプスに初冠雪がありまして、気持ち的にも急に冬らしく、冬に向かって秋が深まったなという感じがしています。観光客の皆さんも海外の方も含めて前の大名町通りを見ても大勢の方が訪れている様子がみられます。その一方で、コロナの状況ですが、先週は学級閉鎖等がピークでしたけれども、今週に入りまして今日も6校8学級ということで、若干今までのピークよりは落ち着きましたが、なかなかゼロにならない状況が続いております。学校では、文化祭ですとか修学旅行などの学校行事などが予定されていますので、この感染状況で止めることなく分散で行うとか工夫しながら学びを止めないようという事で活動していただいております。このことを見守りながらインフルエンザの予防ということについても感染対策を行っていきたいと思っております。

それでは、会議録の承認ということで事前に皆さんにご覧いただいかたと思いますが、令和4年度の第1回から第3回までの臨時教育委員会、それから第2回の定例教育委員会の会議録について承認ということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

《署名委員の指名》

教育長           本日の会議録の署名委員ですが、佐藤委員、それから春原委員になりますのでよろしく願いいたします。

<議案審議>

教育長           本日の案件は、議案が4件、報告が3件となっております。そのうち議案第1号、第4号は非公開でご協議をお願いしたいと思います。非公開については、地教行法の第14条第7項教育委員会の会議は公開する。ただし、人事に関する事件、その他の事件について教育長または委員の発議により出席者の3分の2以上の多数で議決したときはこれを公開しないこともできるとの規定がございます。議案の第1号ですが、学校給食センターの再整備基本方針については、議会協議が必要ということで市が公表前であるため非公開としたいと思います。

議案第4号は人事案件ということで非公開にしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

教育長           それでは、議案第1号と第4号は最後に協議をしたいと思います。

<議案第2号> 松本市図書館未来プランの策定について

中央図書館長   説明

教育長           事前にご覧いただいているとは思いますが、今の説明も含めほかの部分でも結構です。ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

佐藤委員       概要版の1ページめくって右側のネットワークの強化のところで、一番左の丸の中に「多文化、健康医療、ビジネス支援」というところがわかりづらいなと思いました。3つが平行していて、10ページを見れば、多文化サービス、健康医療支援、ビジネス支援の3つがあるのでわかるのですが、この並び方、表示の仕方だと文言の区切りがわかりづらいと思うので、これを明確にわかるような表現に変えていただけたらと思います。

中央図書館長   それぞれ表記します。

教育長           ほかにはいかがでしょうか。

小柳委員       別紙の13ページの1番で、駅前に図書館を設置検討ということについて、長寿命化ということでそれぞれがどういう位置づけなのかわかりづらいというご指摘でした。それに対して、市の考え方として、中央図書館は松本市の基幹図書館として今後もサービスを実施していくとあり、もう一方で、施策の柱3の方向性で目指すコミュニティの拠点としても図書館機能を発揮するために設置していくという2つの図書館の役割を説明しています。仮に、駅前に図書館が設置されれば、コミュニティの拠点という意味合いを強く持つということだと思います。今ある分館についてもコミュニティ機能を充実させていくとあるので、今後、図書館をコミュニティの拠点としていくということは理由としてわかるのですが、駅前につくるというときには何かコミュニティの拠点という理由だけではないものがあるのではないかと思います。そこで、長寿命

化と駅前図書館との位置づけをもう少しきちんと説明したほうがいいのではないかと思います。つまり私としては、あがたの森図書館と同じような位置づけの図書館を駅前につくるというイメージなのですが、いずれにしてもわかりにくいという印象です。

中央図書館長 コミュニティもそうですが、中心市街地によりアクセスのよいということもあるのですが、例えばどんな言葉が。

小柳委員 以前、説明をいただいたときには、今の中央図書館は奥まっけていて不便だから、もっと利便性のいい駅前につくったらいいのではないかとということがスタートだったという記憶があります。しかし、それだけではなく、コミュニティの拠点ということを加えてきたと思いますが、コミュニティの拠点としての機能を発揮するためにアクセスのよい場所につくるということ以外にもっと理由があってもよいのではないかと気がしていますがどうですか。

中央図書館長 人々が立ち寄りやすい場所にといいこともあります。

小柳委員 人々が立ち寄りやすいところだから利用しやすいということなので、そのこととコミュニティの拠点ということのつながりをもっときちんとしていないのではないかと思います。また、ここで意味するコミュニティが何を指しているのかも説明がいるかもしれません。例えば、市内各所にある図書館は、確かにそのエリア全体の拠点になり得ると思いますが、駅前にできる図書館もそのような理解でいいかどうか、もう少し位置づけを説明してほしいと思います。

橋本委員 この駅前だけが先行し過ぎてしまっている気がします。それが新聞紙上にも大きく表題として出たことで、駅前に図書館ができるみたいになっています。最初に話を聞いたときは、塩尻の「「えんぱーく」」みたいなものが松本にも欲しいよねという話だったと思います。でも、コミュニティということだけで区切ってしまうと、コミュニティは図書館でないと駄目なのか。図書館でなくても公民館もそうだし、駅前にほかの施設があってもコミュニティはできるのなら、なぜ図書館なのか。コミュニティと図書館との関係、ここでいうコミュニティについてももう少し明確にする必要があるのではないかと思います。先ほども言いましたが、駅前に施設をつくるということが先行し過ぎてしまって、何のために駅前に図書館をつくるのかということをもっと合理的に合目的的に

説明しないといけないと思います。

春原委員 中央図書館の在り方はあくまでもここに示されているように基幹図書館として考えていくということで、駅前図書館と中央図書館の役割分担はおのずと違って来るはずであって、基幹図書館を未来プランとして重要に考えていくと捉えています。ただし、暮らしとかまちづくりに役立つ機能を持つということでは理解できましたけれども、この理想として描くその未来像は、中央図書館に集約されていく気がしておりますので、あくまでも駅前に図書館があればということを検討していく余地はたくさんあるということで参考とする意見の中に入っているのではないかと捉えていますけれども、駅前図書館と比較して考えていくというよりも、中央図書館をしっかり整えていくほうがいいのではないかと感じています。

橋本委員 うがった見方をすると、駅前に分散型市庁舎をつくるための何らかの拠点が欲しい。しかし、駅前は以前から申しあげているように一等地なので非常にコストがかかります。そのときに市民に対して説得力を持つ駅前の施設という意味で、後づけで図書館をつけたと見られてしまうと思います。だから、そういう政治的な話ではなくて、図書館の機能が本当に駅前に必要なのか。こういうことだから駅前に必要なんだという合目的的で建設的なロジックがいま一つ弱く、何となく感情的に流されている気がします。「えんぱーく」はいい施設だから、「えんぱーく」みたいな施設が松本市にも欲しい。その「えんぱーく」は、なぜいい施設なのかということのをこれこれこういう理由で駅前にあるからいいと。同時にそこに分散型市庁舎をつくりたいみたいなものがオーバーラップするから、本当に駅前に図書館が必要なのかと思ってしまう。駅を利用する人は、むしろ松本市外の人が多いでしょうから、そうすると松本市外の人に本を貸すのですかという話にまでなってしまう。そこにコミュニティセンターとか、松本市外の人といろいろ交流できるから駅前にあるのがいいとか。何かすっきりしなくて、ずっと話が入ってこないように思います。

そもそもこの松本市図書館未来プランがどういう拘束力を持つのか。何のために今、策定しているのか。これに基づいて、これから一つひとつ施策をやっていくのかどうか、その性格もはっきりしていないと思います。

中央図書館長 この未来プランをつくるに当たっては、大規模改修が一番の理由になってお

りまして、図書館をこれからどうしていきたいんだというところから始まっています。元はサービス計画なのですけれども、このサービス計画というものは努力義務でつくりなさいということもありまして、これまで松本市ではつくっていなかったということもあります。

橋本委員　　そうですね。だから何となく委員の皆さんが混乱しているのは、中央図書館の機能を現状のままなるべくコストかけないように改修して、それを補填する機能を駅前を持っていきますと聞こえてしまって、本体の中央図書館の大規模改修という議論がいつの間にか駅前に図書館をつくりますという議論にすり替わってしまっているという感じがして、少しおかしいのではないかという気がします。

小柳委員　　説明には「コミュニティの拠点としての図書館機能を発揮するため、中心市街地のよりアクセスのよい駅前へも図書館を設置することを検討します。」とあるので、利用頻度が非常に高く立地としてとてもいいということで、利用者がたくさんいればそこにつくるということはわかります。そのうえで、コミュニティの拠点として据えるということの理由をもう少し説明してもらえればありがたいです。

私は島内に住んでいるので、現在の島内図書館をみるとコミュニティセンター、コミュニティの拠点とする機能を持たせるということは何となくわかるので、コミュニティの拠点とするという理由をもう少し説明してはどうでしょうか。

教育長　　次長どうですか。

教育次長　　駅前場合は、その地区に限らず交通の結節点というような意味合いもあるので、特定のいわゆる地区ということよりは市全体といいますか、もう少し広げた範囲での交流を想定するものになると思います。

小柳委員　　そうすると、ほかの既存の図書館の持つコミュニティ機能よりももっと高次のコミュニティ機能を持たせる拠点だということを書いてはどうでしょうか。コミュニティの拠点がより高度な部分や他と違うという説明をしていただくと意味合い、位置づけが明確になってくると思います。

教育次長　　少し整理します。

教育長　　先ほど橋本委員がおっしゃったようなことは、これまでの研究会の中でも何



回か議論に出たところだと思いますが、今、松本市の図書館の分館は、10館あります。この10館の分館整備は、まずは子どもたちが歩いていける場所にいつでも手に取れるように分館をつくっていかうということで整備がされてきたと思います。でも、その時代になかった発想というものが、ここに、こういう図書館があったらいいなということで紹介されている、「えんぱーく」や大和市の「シリウス」であり、岐阜市の「メディアコスモス」です。この3つのような日本最先端の図書館を持った場合には、駅の近くで、そして高次のコミュニティという言葉もありましたけど、単なる地区の中のコミュニティということではなくて、通勤通学されている方が日々の暮らしに役立つ図書館として、例えばビジネスシーンですとか、それから若者の集まる場として、そこに本があつてつないでいくという機能が今までの分館にではそこまでの機能を持たせるような施設構成にもなっていないとか、そもそもそういうことを想定しての図書館になっていないから、閲覧コーナーは最低限にというコンセプトで整えてきたと思います。だから、もう時代が変わってきたというところを今回の中央図書館の大規模改修に合わせて駅前に、例えばこれほどここに間借りをしてという形になるかもしれないですけども、少し実験的にやっていくというような要素も出てくるかもしれませんが、高次の今までの松本の図書館になかった「えんぱーく」のような機能を持った、いろいろな活動がつながる場も含めてつくっていくことが必要ではないかということで、これは前段の在り方検討会で提言をいただいたことを元にこういう組み立てをしております。

そして、先ほどこの未来プランは何のために策定するのですかというお話がありました。最初に図書館がつくった計画は、このサービスについては今こういうことが課題で改善していくことが必要ですというものでした。ただ、このスタートのときに、所管の委員会の議員さんたちからも先ほどお話したような松本市はこれまで分館を整備してきて、分館や蔵書数は立派だけれども、今の図書館の在り方は他市を見ていると相当変わってきているので、この際、もし計画を立てるならば根本から松本の図書館サービスということの在り方を見直すそういったものを時間かけてでもつくったらどうですかというご意見をいただいたと思います。確か小西館長が就任されて直後のことだったと思いますけれども、そういったことを盛り込みながらここまで夢を描くものにしてきた

とっております。

だから、ここに書いてあることが全部実現できるかという、確かに人も必要でしょうし、ハード面でも様々なハードルがあると思いますけれども、でも、夢を描かないことには松本の図書館は変っていかないという気概を持って図書館を中心にこれだけまとめてくれて、そしてそれを図書館協議会や在り方検討会の委員さんたちが支えてくださったということだと思っているので、そういう位置づけでご理解をいただくということが必要かと思っています。

佐藤委員

今、教育長からもご説明いただいたように高次なというか新たなニーズであるとかつながり、コミュニティというのは駅前にそういったスポットを設置することによって生まれ得るのかなと思いつつ、文言として中心市街地によりアクセスのよい駅前とありますが、本当にこの松本において駅前にアクセスしやすいと言えるのかどうかということを疑問には思っています。今、駐車場が狭いということが課題になっているわけですが、駅前に行くよりもその駐車をするためには料金がかかり、かつバスで行けばという場合、なかなかバス路線の本数も少なくなったりしている中で、確かにおっしゃったとおり高校生とか電車やバスを利用する限定的な通勤の方たち、通勤客の方たちにとっては利用しやすい新たなスポットの一つであり、アクセスポイントだと思います。でも、この文言で本当にアクセスのよいて書くことが適当なのかどうかということも疑問に思っています。ちなみに、私はMウイングを拠点にいろいろ活動を行っている中で、Mウイングでイベントを行うと皆さんが駐車場がないので行けませんという回答をよくもらいます。しょうがないので拠点はMウイングにありつつもなんなんひろばとか改めて別の場所を借りてそこでイベントを行うというようなことを通常やっているの、そういった経験の中から駅前に本当にアクセスがよいとここに書いていいのかどうかというところを疑問に思っています。

橋本委員

先ほど言ったように、どの程度先を縛るのかという話と一緒に、駅前に図書館ができるという記事が出てしまったから、駅前だけが独り歩きしてしまって何か既成事実のように駅前に図書館ができるようになってるように思います。しかし、今教育長がお話されたような本筋のところはしっかりとアピールされないと駅前にもその図書館をつくるようになったときには、いろいろな議論が巻き

起こると思います。その一つが市庁舎問題で、そこを切り離して考えたほうが  
いいという感じはしています。

教育長       これは確かパブリックコメント前の経済文教委員会でも、庁舎をつくるため  
の計画ですかと同じようなことを言われました。だけど、今まで議論してきた  
ことは、市長が提唱される分庁舎をつくることは全く別物ですよね。だから、  
それは別物ですとそこでも明確にお答えをしました。

だからそういうふうに取りられる方がいらっしまったとしても、ここで言っ  
ているアクセスのよいというところは、これまでの議論の中では、例えば、高齢  
になったときにバスあるいは電車で移動ということに限られてきますよね。松  
本市は市域が広いので、そうは言っても車が現実的だろうということはあるか  
と思いますが、遠い将来、例えば、自動運転みたいなものが可能になってきた  
ときには、駅が松本駅に限らなくても交通の結節点になって、高齢者にとって  
より移動やアクセスしやすいところであることに間違いないのではないかと  
いう議論を職員ともしてきたと思います。そこも市街地によりアクセスのよい駅  
前といういろいろな誤解が生まれると思うので、もう少し補足をして、先ほ  
どの39ページのところも今委員の皆様がおっしゃられたようなことを少し付  
け足す形にしたらいかがでしょうか。

中央図書館長   はい、少し補足して修正させていただきます。

小柳委員       前にも言いましたように、もし仮に新しいこの図書館が駅前にできるよ  
うな方向になったとしたら、私は蔵書のない本のない図書館ができたらい  
いと思っております。

教育長       本のない図書館ってどういうことですか。

小柳委員       空間がゆったりとあり、端末が揃っていて資料を検索してプリントでき  
るとか、DVDが見られるとか、CDが聞けるというような図書館をイメージし  
ています。駅前でなくてもいいですから市内のどこかにこういうのができたら  
いいなと思っています。

佐藤委員       特に今あるシステムの中で言うと、いろいろな分館にある本を駅前で取り寄  
せて、通勤、通学の機会に借りて、返してということが可能ということですよ  
ね。今、電子書籍は自宅にいて読めるということがメリットかなと思いますが。

教育長       その電子になってくると本は要らないのではないかと、確かに電子図書も急

増したり、より誰もがアクセスしやすいようになれば、そういった図書館も出てくるかもしれないですけど、でも、例えばインターネットがこれだけ普及した中でも本、図書というものは大切な媒体だと思います。

おととい、軽井沢の風越学園に視察に行ってきましたけれども、風越学園の子どもたちの入り口のところからフロア全体の中心が図書館になっていました。これは校長先生から説明を受けましたけれども、いくらインターネットが進んでもやはり、いろいろな過程を経て出版をされた本、図書に載っている情報というものは取捨選択されている一定の信頼のおける情報だということを子どもたちがICTに触れながらも情報を精査していくということを、常にこれだけの本があって、本に触れる中で情報の取捨選択という訓練をしていってほしいというお話がありました。私もそのことが図書館の本の意義ではないかと思っていますので、できれば将来、遠い将来どうなっているかもわからないですけども、本来は本のある空間で本のある雰囲気の中で人と人が交流するとか、「えんぱーく」などに行くときそういったことを感じるの、私はこの新しくできる図書館には期待したいと思っています。

でも、遠い将来、小柳委員がおっしゃるようなこともあるかもしれないですね。例えば、国会図書館の資料も取り寄せではなくて検索してそこで取り出しができるということになれば、将来的には調べものとか今まで相互貸借でやっていたことができるようになるでしょうけれども、ただ、そこには資料と人を結ぶ、図書館司書は必要だと思います。

小柳委員      こういう紙資料を読んでコミュニケーションすることから画面を見てコミュニケーションをする形に変わっていけば、質の違うコミュニケーションのスタイルができるのではないかという気がしました。

橋本委員      私は、その意見にはどうしても賛成できなくて、なぜ賛成できないか前にもお話したと思いますけど、図書館の蔵書は動かなくて、貸し出されて動いているものよりも蔵書として置いている部分のほうが多いわけで、その中の雰囲気を大切にしたいというのであれば、駅前の松本市で一番高い一等地のところ動かさない本で空間を占めるのかということについて極めて疑問に思います。

教育長        動かさない本というその考え方については、申し訳ないですけど違うかなという感じがして、動かさない本ではなくて、例えば、駅前にはビジネスに

関する最新の情報が得られるようなものが常に置いてあって、古くなったものは書庫に行くか廃棄にするかということは、今まで以上にこれまでの分館とは違ってよりもう少しその図書館の機能だとか特殊性みたいなことも考えながら整備をしていく必要があるのではないかと思います。

橋本委員　　いつもあがたの森図書館を利用していますけど、あがたの森に本を置く必要性は全然ないと思います。インターネットが非常に発達してインターネットで予約してあがたの森での受け取りにすれば、あがたの森に行けば非常に近いアクセスで本が借りられます。あがたの森図書館で本を探すといってもそもそもそこまで本の種類も多くないですから、だからそういう意味で分館というものをもう少し簡素化して行って、図書の受渡し場所みたいな形にしていくというのは一つの手だと思います。しかし、今おっしゃっていた話は、そこにコミュニティの機能を持たそうとするとそこにある程度の本があって、その本の雰囲気の中でコミュニティを広げるとなると、一定の度合いでそこに蔵書を置くという形になるわけですよね。そうだとするとその蔵書はそんなに地価の高いところでの空間を占める意味合いがあるのですか。それこそ、デリバリーで受渡しすることがずっと経済合理性に合っているのではないですかという議論になってしまうと思います。

佐藤委員　　今の教育長のご説明から考えると、むしろ何かそのテーマ性を持ったものとかをそこに設置することによって仕掛けるといふとあまり言い過ぎですけど、何かそこから生まれるというようなやり方が、駅前ではないにしても市街地における図書館の性格としてはできてくるのかなと思います。そこでいろいろなリーディングファシリテーターとかがいろいろな読書会等を開いたりしながら、そういうのがきつとここの新たなコミュニティを生み出すということかなと想像したりもします。

教育長　　おっしゃるとおり、今、先端を走っている図書館もそういうことをやっていますので、松本が今までのようなスタイルに固執せず、そういったいい図書館の取組みをまねしながら、でも学都松本のシンカに繋がられるようなことがこのプランの趣旨だと思いますので、今のご意見を反映をして修正を再度してということでもよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、議会で報告する前にはもう一度確認をしていただくようお願いいたします。

<議案第3号> まつもと文化遺産の認定について

文化財課長 説明

教育長 ご質問、ご意見お願いいたします。

小柳委員 認定について異議はありません。お聞きしたいことは、一つ目の名称に城下町から商都へとあるのですが、商都という言葉は、言葉自体もう文化遺産という理解したほうがいいですか。私は、今も商都でもあると思っているのですが、商都という言葉は文化財的な状況、状態になっているのでしょうか。

文化財課長 文化財に係る用語として商都という言葉を使うということが、もうコンセンサスがあるかということによろしいでしょうか。

小柳委員 商都という言葉がこのまつもと文化遺産候補の名称の中に使われていたので、私としては商都という言い方がすでに遠い昔のことを指しているような感覚で読み取れたので、どう認識したらいいかと思い質問しました。

文化財課長 城下町から商都へというその言葉の中に、江戸時代とのその後の近代化、現在に至る商いの町としての商都という動きをこの言葉で表していると思いますので、この商都という言葉は、江戸時代も松本城下町は商都として栄えたわけですけれども、それは今でも変わらず商都として栄えているという意味で使っていると思います。

小柳委員 わかりました。

教育長 ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

先ほどの課長の説明だと、この地図はまた刷り直して公開されるということでもいいですか。

文化財課長 1枚目の地図は先ごろ作って教育委員の皆さんにお配りしましたまつもと文化財マップを流用していますけれども、過去、全ての5件とも広報用の文化財課としてつくるマップを用意してございますので、その作成を今後やってまいりたいと思います。それと同時に、あくまでまつもと文化遺産の活用は、地域が主体となってやっていくものですから、地域の中でも独自のマップを作成して、それに対してまた市から支援していくという営みがあるというところで、

平行して進めていく形になると思います。

教育長 わかりました。今、ホームページでも市で用意したものはデータで取り込むことができるということですか。

文化財課長 地区で作成したものはそこには載ってないと思いますが、市で用意したものはまつもと文化遺産のページに地図を掲載しております。

教育長 そこも地区の方とご相談をして、リンクを貼れるようにしていくとか、ご紹介だけでもするとか。

春原委員 まつもと文化遺産は、今回で7件ということですが、この認定申請に基づいて、取り上げてそれを認定するかどうかという経過というものはある程度地域が主体になって申請するということですか。

文化財課長 まつもと文化遺産を構成している文化財ですけれども、指定されたものもありますが、むしろ指定されていないものの方が多数を占めています。それを地域の皆さん主体に公民館が事務局となって市内35地区で過去に悉皆調査をして1万件ぐらいの文化財を選び出しています。その中から一つのストーリーを構成する文化財を選び出して、それでこの文化遺産を認定しております。

この段階で新たに加えられる文化財も当然出てくるとは思いますし、この認定がきっかけになってさらに進んで文化財の指定に結びついてくるとということも今後出てくると思われます。現状では今、指定された文化財と未指定の文化財で組み合わせられて構成されています。

春原委員 そのものを保存していくという意味では、市はどのぐらい、どういうふうに把握していますか。

文化財課長 この関連文化財群のハンドブックをつくっていますが、その基になるデータベースがあります。それで文化財との把握はしておりますけれども、例えばあったはずのものがなくなってしまったとか、そういったことも今後出てくると思うのですけれども、当時、悉皆調査に当たった地元の皆さんとの情報交換を通じて把握に努めていかなければならないと考えております。十分できているかという、なかなか情報が集まってこない地区もありますけれども、基本的には地区の皆さんにまず文化財の現状把握をしていただいた上で、それを私どもも一緒に把握していく必要があるかと考えています。

教育長 ではよろしいでしょうか。

それでは、これについては承認したいと思います。

<報告第1号> 「国宝松本城 Week」の開催について

松本城管理課長 説明

教育長 ご質問、ご意見ありましたらお願いします。

小柳委員 国宝松本城はいろいろなアプローチで多くの方に知ってもらおうという点で様々な取組みがなされていていいなと思いました。この中のスペシャルガイドツアー、これもなかなかいいと思うのですが、このガイドツアーの申込方法の周知はどうやっていますか。

松本城管理課長 市がそのツアーを直接販売することができないものですから、松本観光コンベンション協会の商品として販売されるものです。コンベンション協会のほうで周知をしたり、お城好きの人たちの情報が集まる攻城団というサイトがありますけれども、そちらに広告を貼って相当参照はいただいているのですが、まだ集客には結びついていないという実態がございます。

小柳委員 それは周知の範囲が狭いからですか。もっと広くすれば集まるのでしょうか。

松本城管理課長 正直なところを申し上げますと、コンベンション協会とも検証を今しているところですが、金額の設定が高かったかなという反省をしています。それと、コンベンション協会が着地型の観光商品ということで販売しておりますので、基本的には市外の方が旅行支援を使って松本に泊まりにきていただくという商品になってしまっていますけれども、市民の方がもっと格安に参加できるようなものとセットにしたほうがよかったのではないかとということで、来年度以降変更してまいりたいと考えています。

小柳委員 期待したいと思います。

教育長 ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

私もこのガイドツアーが、例えば大塚先生とめぐる松本城ツアーとか行きたいなと思っても、一泊二日で松本市民は対象ではないと思ってしまうなと思いました。

松本城管理課長 今年初めて実施してみるということで、宿泊とセットのものしかご用意しなかったことは大きな反省点だと捉えています。

橋本委員 経済効果を考えれば、当然、宿泊とセットにするでしょうね。



佐藤委員 昨日もいろいろ撮影とかあったと思うのですが、インバウンドも戻ってきている中で、ぜひこういった催しに新まつもと物語の外国人ライターさんとかに参加してもらって、種々イベントをきっかけに広報につながるような働きかけができるといいなと思いました。

教育長 頑張ってください。ほかにはよろしいでしょうか。  
それでは、報告を受けたことといたします。

<報告第2号> 史跡弘法山古墳調査委員会委員の委嘱について

文化財課長 説明

教育長 ご意見、ご質問ありましたらお願いします。  
よろしいでしょうか。それでは、報告を受けたこととします。

<報告第3号> 史跡小笠原氏城跡整備基本計画策定委員会委員の委嘱について

文化財課長 説明

教育長 ご意見、ご質問ありますでしょうか。  
よろしいですか。保存活用計画の際には委員の中で地元の方のほうが意見活発だったということですので大事にしてください。  
以上で公開案件がすべて終わりましたので、ここからは、非公開案件ということをお願いします。

<議案第1号> 松本市学校給食センター再整備基本方針（案）について【非公開】

非公開案件につき内容省略

⇒ 承認

<議案第4号> 松本市博物館協議会委員の委嘱について【非公開】

非公開案件につき内容省略

⇒ 承認

《閉会宣言》

伊佐治教育長は、令和4年度第7回松本市教育委員会を閉じる旨宣言した。

<午後5時56分閉会>

会議録調製職員

教育政策課教育政策担当係長

小澤 弥生

会 議 録 署 名 委 員

佐藤 佳子

---

春原 啓子

---